

◎ 1月定例会「小石川:七福神めぐり」 1月6日(月)晴れ 参加者 45名 (体験他 13名)

～令和初の七福神めぐりは、都心・文の京(ふみのみやこ)を散策し/今年の幸運を祈りました!～

◇小石川:七福神めぐりコース◇

東京メトロ丸の内線/茗荷谷駅 (10:20)～林泉寺(縛られ地蔵)～深光寺(恵比寿)～徳雲寺(男弁天)～石川啄木終焉の地～極楽水(女弁天)～宗慶寺(寿老人)～真珠院(布袋尊)～傳通院～福聚院(大黒天)～昼食(日本料理「天しゃぶ」)～源覚寺(毘沙門天)～東京ドーム(福祿寿) (15:00 解散)

当日は3月上旬並みの暖かい好天に恵まれました。西武池袋線池袋駅地下改札口に集合した参加者が、東京メトロ丸の内線で移動し、茗荷谷駅に集合した参加者と合流。そこで参加者が改めて新年の挨拶を交わし、10名の体験参加者を紹介し総勢45名の大人数で出発しました。

駅を出て拓殖大学の方に坂を下って行くと、私たちと同様な数十人のグループ二組が前を歩いており数分で林泉寺に到着。縛られ地蔵*1の前で僧侶から説明を伺いました。数名の方が教えてもらった様に地蔵尊を縄で縛っていました。

林泉寺を出て更に坂を下ると「茗荷坂」*2という案内板が立っていました。その先の坂を上って深光寺の境内に入り本堂右脇に祀られている恵比寿(写真→)を参拝。また、本堂の左手にある南総里見八犬伝で知られる滝沢馬琴のお墓を参拝。

深光寺を出て地下鉄のガードをくぐり、左手の藤坂を上り春日通りに出て左手すぐの徳雲寺に到着。境内の弁天堂に祀られている、めずらしい男弁天(男性の顔をした人頭蛇身の姿)を参拝。徳雲寺を出て春日通りを右に歩き、播磨坂*3を左に下り左に入った所にある石川啄木終焉の地歌碑を見学。播磨坂に戻り、小石川パークタワーという高層マンションに到着。ここの庭園内に昔は湧水が豊富であった極楽水という古井戸跡があり、小さな祠に祀られている女弁天を参拝。

マンションの隣の宗慶寺に到着。ここで他の二組の団体と一緒にになり、混雑する本堂前に祀られている寿老人を参拝。徳川家康の側室茶阿局*4が葬られており、正面葵の紋が鮮やかでした。

宗慶寺を出て吹上坂を春日通り方面に上り、エーザイ本社前の交差点を左折してしばらく歩き、少し広い交差点を右折してすぐに真珠院*5に到着。本堂右手の階段を上った所にある布袋堂に祀られている布袋尊と、裏の墓地にある約2mの巨大な布袋尊(写真↑)を参拝。真珠院を出て右に進み突き当りを左に曲がるとすぐに傳通院に到着。徳川家ゆかりの女性の墓が数多くあり、於代の方を始めとして、千姫、三代将軍家光の正室孝子等のお墓を参拝。いずれも大きく立派なお墓でした。

傳通院を出て春日通り方面に歩くとすぐに福聚院に到着。本堂に祀られている大黒天*6を参拝。(写真→)

福聚院を出てすぐに、春日通りに面した日本料理「天しゃぶ」に到着。ちょっと急な階段を上り2階の店に入りました。貸し切りで予約しておいた店内は、定員は通常46名・最大48名という事で、ちょっと窮屈でしたが座敷とテーブル席、カウンターに着席。予約しておいた食事に各自お好みの飲み物で昼食をゆっくり楽しみました。



深光寺/恵比寿



真珠院/布袋尊



福聚院/大黒天 *6参照

昼食後、傳通院まで戻り隣接する淑徳学園*7前の善光寺坂を下って行くと道路の真ん中に大きな善光寺坂のムクノキ*8が出現。善光寺前を下り千川通りを右に曲がり、えんま通り商店街と書かれたアーケードを進みます。こんにやくえんま前交差点を右に入り、こんにやく閻魔*9として親しまれている源覚寺の境内に入り毘沙門天を参拝。ここで数人が源覚寺に入らず通り過ぎてしまった事が分かり、連絡を取り合い戻ってもらいました。昼食会場からここまで距離が長く道も狭かったため、列が途中で途切れてしまった事が原因だったと反省。こんにやく閻魔を出て千川通りを後樂園方面に進み春日通りを横切って東京メトロ丸の内線後樂園駅構内に上がり東京ドーム方面に進みます。迫力満点のジェットコースターを見ながら総合案内所近くのジオポリス屋上の植え込みの中に祀られている福祿寿*10を参拝。

ここで15時頃解散しました。

- *1: 人々が願いをかける時地蔵尊を縄で縛り願いが叶うと縄をほどくので、しばり地蔵ともいわれた。
- *2: 辺り一帯がミョウガの産地だった事が茗荷谷の地名の由来と記載。
- *3: 水戸徳川家分家・松平頼隆(徳川光圀の弟)が藩主の常陸府中藩(現茨城県石岡市など)松平播磨守上屋敷があった。
- *4: 家康が最も信頼していた女性と言われる阿茶局とは別人。
- *5: 徳川家康公の本生母於代の方の生家、松本藩後に沼津藩主となった水野家の菩提寺。
- *6: 御身に甲冑を着して外からの災難を防ぎ、右手に宝袋、左手に宝棒を持つ、外難を防ぎ福祿を与える古い原型の姿の尊像です。後に招福開運の強調、大国主命信仰と習合し、俵に腰掛けた現在型ができました。
- *7: 明治25年に傳通院が創設した女性教育校
- *8: 樹齢400年、文京区指定の天然記念物で江戸時代からずっと御神木となっている。
- *9: 寺名の通称。「宝暦の頃、眼病の老婆この尊像に治癒の願を掛く。閻魔、おのが片目を与えこの願を容れ眼病を治す。老婆、好物の蒟蒻を断ち閻魔に報う。」による。
- *10: 水戸徳川家の上屋敷であった現小石川後樂園にかつては祀られていたが、平成7年に小石川七福神発足時に小石川後樂園が年末年始休園になってしまうため東京ドームに祀られる事になった。

当日参加された方また参加できなかった皆様にも、小石川七福神の「七難即滅、七福即生」のご利益がある事をお祈りいたします。

報告：新井建男



小石川七福神/御朱印帳

◎1月定例会 小石川/七福神めぐり 参加者一同 2020. 1. 6. (月) 晴れ 参加者45名



傳通院 本堂



福聚院/大黒天